

## 平成30年度 第1回「ともに考えよう まちづくりミーティング」

平成30年6月23日（土）16時～

三谷公民館 2階 大ホール

薬師谷、三谷（地区、校下）

### (1) 市長あいさつ

#### 【山野金沢市長】

皆さん、こんにちは。

土曜日、たくさんの方にお集まりいただきました。心から感謝を申し上げます。

今日は、薬師谷、三谷地区の皆さんにお越しをいただきました。皆さんも日ごろから、このインターチェンジの周りの美化活動にお力添えもいただいています。

また、つい先般、三谷交流の広場、正式には「三谷さとやま交流広場」を開設いたしました。いろんな形でご利用をいただければと思いますし、地域外の方にもお越しをいただいて、文字どおり、さまざまな交流につながっていけば大変うれしいと思っています。

また、先般、ごんでん朝市に早朝寄らせていただきました。この豊かな自然に恵まれた、本当に里山の地区でもあります。ぜひそういうこともこの地区の魅力として発信をしていくことが大切なのかなと思っています。

今日は、事前に皆さん方からいただいたご意見につきましてのお答えさせていただきました。そこからいろんな議論に膨らんでいけば大変うれしいと思っています。お時間がありませんでしたら、事前にいただいた質問じゃない、違うテーマでも議論もできればと思いますので、限られた時間ではありますけれども、実りのある会議にしたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

今日はありがとうございました。

### (2) 地域代表あいさつ

#### 【三谷地区町会連合会 会長 横山氏】

ただいまご紹介いただきました横山でございます。私は、今年の4月から、この三谷地区の町連会長を受けました。どうぞひとつよろしく願いいたします。

今ご紹介あったように、地元を代表して一言ご挨拶させていただきます。

まちづくりミーティングがこの三谷公民館で開催されるに当たり、山野市長を初め、教育長、そして所管の局長、それから幹部の皆さまにご出席をいただき、本当にありがとうございます。

このような形でまちづくりミーティングが開催できますことを本当にうれしく思っております。

それから、本席には、薬師谷地区の皆さんを初め、三谷地区の皆さん、大変お忙しい中、しかも集まりにくいこの時間帯にもかかわらず、こうしてたくさんの方々にご参集をいただきまして、本当にありがとうございます。

最近、少子・高齢化や人口減少などの問題により、さまざまな問題が発生いたしております。そんな中、今、それぞれの地区の課題や、あるいは共通課題について、できる限り絞った内容できょうは提言し、そして議論をいただこうということでございます。先ほど山野市長から言われたとおりでございます。

また、時間の余裕があれば、もちろん、皆さんからいろんな議題についても発言をしていただければと思っております。

とにかく、このまちづくりミーティングが提言した内容を中心にいろいろ議論していきたいと思っておりますし、またそのことによって、この中山間地にある薬師谷、それから三谷の活性化を図っていきたいと考えております。

また、それぞれこの地域に、いわゆる両地域に住んでいる方々の安全・安心を図るために、より住みやすい環境づくりをしていかなければならないと考えております。

そういう意味合いにおきまして、今日のまちづくりミーティングが実のある内容で、そして意義ある内容になることを期待いたしまして、私の挨拶にかえたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

### (3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、討議

#### ①工業団地内の企業への社宅整備支援補助金について（薬師谷地区）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

#### 【薬師谷地区町会連合会】

人口減少しているというのはわかる。人口減少していると言いつつ、昼間人口は、この

地域の人口よりも多い。その人口を何とか活用できないかというのが私たちの願いです。

ここは三谷地区もすぐテクノパークが近いですし、工業団地も近いですし、もちろん我々もそうです。

もう一つは、ずっと思っているのは、インターがあつて、そして工業団地があつて、そういうネタがあるのに、種があるのに、何もせずに指をくわえて見ているというのは非常に残念です。活性化の何かすればできるということをおぼろげにわかっていながら、こういう規制があるばかりにできないというのは残念なのですけれども、このまま消え行く立場でずっとやればいいのか。

#### 【山野金沢市長】

おっしゃるとおり、インターもある、テクノパークもあつて、北森本インター工業団地もある。たくさん昼間人口の方がいらっしゃいますので。企業の皆さんにいろんな地域活動にかかわっていただいているけれども、なかなかそれが直接的な地域の発展につながらないという問題提起かと思えます。

もちろん、企業の皆さんも一義的にはお仕事しなければいけませんから、プラスアルファ、先ほど言ったような活動はしていただいているけれども、どんな活動が引き続き地域の中でできるのかということをおぼろげにわかっていながら、実はこれまでももちろん、いろんな要望を上げながら企業の皆さんとお話ししているところではありますけれども、いま一度、ご提案もいただきましたので、私は、定期的にテクノパークや、北森本インター工業団地の皆さんと意見交換する場がありますので、その問題提起も投げながら、企業側からのご意見もお聞きをしながら、どんな形で地域の活性化につなげていくことができるのか、またヒントを探っていければと思っています。

#### 【薬師谷地区町会連合会】

今は、社宅の整備の支援補助金というテーマですが、たしかに社宅というのは各企業がするかしらないかと決定権ありますけれども、社宅というよりも個人の1世帯でも2世帯でも3世帯でもここに家を建てる、そういうことに支援はできないのですか。

確かに先ほどご回答の中に、社宅整備の問い合わせや要望もないことから補助金制度を設けることは考えてないという回答ですけれども、その個人を対象にして、別に要望があろうとなかろうと、とにかくこの地区においてはこういう家を建てたらこれだけの補助金出

ますよとか、あるいは二世帯住宅にすればまた補助金出ますよと、そういうのは考えていただいてもいいのではないかと。

そういうのは決して住民から要望があろうがなかろうが関係なしに、市として、あるいはこの地区としてこういう補助制度がありますよ、また環境もいいですよと。そういうのを訴えかけてやっていく必要があるのではないかと。

確かに、ただ自然があるというだけでは来ないと思う。先ほどから出ている交通の便、それから買い物の便、そういった部分についての整備、そういった部分の誘致も必要ではないかと。

少しテーマから外れることを言っていますけれど、そういうことも視野に入れてやっていかないとなかなか人口を増やすというのは難しいのではないかと思いますので、そういう個人を対象にする補助制度という点についてのお考えはあるのかないのか、そこを確認したい。

#### 【木谷都市整備局長】

先だってから都市計画マスタープランということで、この先、めどとすれば20年、30年を少しにらみながら、まずは10年間ぐらいの間の計画ということで立てさせていただいております。

今回は今までと違って、人口がだんだん減少していく。これまではどちらかというと、何でも大概のものは右肩上がりで、それを想定して、頑張っていくという形でいろいろ計画が立てられたのですが、そうでない、金沢市としても本当に今までにない状況でかじを切っていかななくてはいけないということで、まずは地域の皆様方としっかりとお話をさせていただくことを進めさせていただいております。

こちらの三谷方面の、特に北部方面のほうでは、そのブロック別の話し合い以外にも個別にお声かけいただきまして、いろいろお話もさせていただいております。その中でも一番大きな問題として、人口減少を何とかできないのかということをお聞きいただいております。今の段階ですぐにお尋ねいただきました個人の住宅への補助をするかしないかということはお答えできる段階ではまだないと思っています。

金沢市としたときには、真ん中の都心部から、大きく分けて中山間地がある。この中山間地自体は同じ議論では進められないと思っております。市内の中でいろんなところの他都市の事例そのものも含めまして、できる限り、どういう対策を打てるか。

先ほど市長が申しましたように、市街化区域というものの自体を広げていって、ここを要するに金沢の真ん中のほうと同じような土地の利用をしていくというのは、正直申し上げて、おそらく孫や子に負担を強いることになっていく、金沢市全体がもう結果的に落ち込んでいくということにならざるを得ないという中で、何ができるか、今一生懸命考えています。

そういう中で、抜本的に画期的な提案ができるかどうかといたら、はっきり言ってかなり難しいとは思ってはいるのですけれども、何とか中山間地、皆さんと一緒に何か少しでも盛り上げていくような方向に対して、制度もどういう形で持っていけるのかということは今少し考えております。

また、この辺を少しまた詰めていきまして、また改めてまずは皆さんの課題をお聞きしたのと同じような形で、またそういった話を持って伺いして、またそれに対するご意見とかをお聞かせいただきたいと思っておりますので、今の段階でお答えにはなっておりませんが、またもう少し今一生懸命対策なども考えているところですので、もうしばらくお時間いただければと思っております。

## ②小学校を中心とした地域の活性化（三谷地区）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、  
レジュメを参考願います。

### 【三谷地区町会連合会】

今の制度を活用すれば、保育所に来ているそのお子さんを親御さんの理解を得て小学校に来てもらう。これは制度的になじむということですね。それは特に親御さんの意向もまた当然絡んできます。

それともう一つは、特にテクノパークの企業に来ている従業員の方々というのは、私が聞く限り、田上方面から非常にたくさん来ているそうです。今、その田上の小学校等については、もう児童数があふれるくらいの状態で、また学校も建てなければいけないという問題にもなっていると。

こういう状態ですから、私は保育所の関係だけでなく、テクノパークに来ている企業の親御さんに呼びかけて、三谷小学校へ入れたいという親御さんがいれば三谷小学校に入れるような、その仕組みをつくってほしい。

これは、先ほど特認校の関係については、小中学校9年制でないと、今そういう特認校にはしていないというお話でしたが、こういう地域の特殊性、地域によってそういう特例を設けてもいいのではないかと思います。

テクノパークも親御さんに意向を確認し、もし三谷小学校に行ってもいいということになれば、制度的には特認校にしないと、今の問題ではクリアできないという気がしますので、その辺をあわせてご検討いただきたいと思います。

#### 【野口教育長】

一番基本は、ここにお示ししてありますこの基準です。この基準は、やはり通学区域審議会というところがありまして、その中で何年間も練って、これで行こうということできずと来ておりますので、やはりこれは教育長としては尊重したいと思っています。

今、そのテクノパークの保護者の方々という話もありましたけれども、それは地域としてもやはりテクノパークに行っていて、そしてこういったところに放課後児童クラブありますので、そこにお子さんお預けになることもできますよということをお話していただいた上で、こちらの学校に通わせるということについては何ら問題ない。それは基準に合っておりますので、それはできると思っております。

やはりこの基準は、私は今守りたいと思うし、小学校1校でもその基準を破って特認校を認めてしまえば、また金沢の小学校それぞれのところでそういった流れができてきて、指定校の変更をというか、通学区域の選択制というものがまた復活をせざるを得なくなってくるということで、この選択制をなくしたというところの背景もひとつご理解をいただければ。これはあくまでもそれぞれの地域のコミュニティを守るということでやっておりますので、ぜひそのあたりもご検討いただければと思います。

#### 【三谷地区町会連合会】

テクノパークの、企業が入っている校区というと、薬師谷、不動寺小学校のエリアです。そこに、例えば地元のほうからSNS関係で呼びかけて、テクノパークの方の親御さんが三谷へ行きたいという方がいれば、それは特認校にしなくても三谷小学校に来ることは可能ですか。

**【野口教育長】**

この3番目というのは、あくまでも保護者の意向です。したがって、保護者の方がこの学校の放課後児童クラブに学校が終わった後預けたいと、そういう意向であればそれは可能でありますので、そのことを考えて動いていただければと思います。

**【三谷地区町会連合会】**

わかりました。地元のほうからも働きかけていきたいと思えますし、それから、行政側についてもそういう情報をぜひテクノパークの従業員のほうへ啓発していただきたい。そういうことでよろしくをお願いします。

**【野口教育長】**

お手元にございます基準等、これにつきましては、毎年きちんと保護者の方にっておりますし、基本的には周知されている内容と思っておりますので、これごらんになっていただければと思います。

こちらのほうから積極的にということなりますと、実はそれぞれの学校でもう1名子供がいたら学級が増えるとか、いろいろさまざまな要件がありまして、非常に言いづらいものがありますので、ご理解いただければと思います。

**【三谷地区町会連合会】**

金沢市の教育関係について、非常に感激、感謝していることが一つある。今、全国の学力テストで、金沢市の学力テストの点数は非常に上位に、高いレベルにありまして、石川県、福井県が常に3位ぐらいのレベルで子供たちの学習能力というのは高いわけでありませう。これは、まさしく教育関係者の努力の成果が今あらわれていることだと思えます。

問題は、ここから先です。何が問題かということ、その優秀な子供たちをみんな東京へ出してしまう。帰ってこない。次男、三男の子供たちばかりが残る。地元には住めない。この今の地域で田舎では住めない。親が、金沢へ行きなさい、仕事に近いうところに行きなさいと言って出してしまう。それによって世帯がどんどん、年寄りが亡くなるたびに世帯数が減っていく、これが現状です。特にひどいのは、薬師谷よりも三谷のほうひどいです。

ここに住むための地域のまちづくりの、要は一つの糧がないと、ここで育った人材がここに残らない。そのために、こちらへ呼び戻すための方策は何かないかということ、先ほど

薬師谷のほうから提案がありました社宅という話や、この地域に住むための一つの知恵はないかという話につながってくると思います。

この地域に住んでもらうための方策といたら、別に今ここにいる人で考えるよりは、よそから来てもらったほうがはるかに効率よいと思う。

企業誘致をする場合に、こういう住むところがありますよという提案をすることによって、家族連れの従業員をこの地域に寄せて、ここで子供たちを育てていただいて、元の地元に戻っていただく。子供たちは帰したっていい。とりあえずここに来ていただいて、地域のつなぎをやっていただける方を呼び込むための方策を考えるべきだという思いがあります。

優秀な子を育てていただいているので、その優秀な子供たちを地元に残してほしいと。そうすることによって、必ず10年先、15年先にはこの地域がもう一度豊かになっていくと思います。

昔つくっていただいた財産がどんどん都会に持っていかれているような気がいたしまして、それが非常に残念な思いをしております。

#### 【山野金沢市長】

特効薬というものはすぐ思い浮かびませんが、問題意識はよく理解できますので、一つ一つの政策を積み重ねていながら、少しでも期待に応えられるようにしていきたいと思います。

#### 【三谷地区町会連合会】

もう1つ確認したいのは、今、保育所に来ている親御さんがお子さんを小学校に入れたいとか、あるいは今テクノパークのほうから通っている方が小学校へ入りたいというお話があった場合に、スクールバスの運行等はどうなっていくのか。

#### 【野口教育長】

今、こちらのほうでお使いいただいているスクールバスにつきましては、基本的にはこの4校を統合したときにそれぞれの地域から帰ってくる子供たちのために運行しているバスでありますので、そのバスをそういう形では優遇することは難しい。

したがって、地域とそこをつなぐバスの運行等について考えていただくことがまず大事



だと思っています。

おそらくそうなると、ここに子供さん連れてくるときには、親御さんが連れてくることになろうかなと思っていますので、それが一番の原則になっていると思っています。

こちらのほうの確認ですけれども、その親御さんがこの学校に通わせるのではなくって、基本的には仕事の都合があってこちらの放課後児童クラブにそのお子さんを預けるといことが大原則であるということをお願いしていただければと。

この学校に通わせるということになると、いわゆる選択制になってしまう。そうではなく、保育所のほうに来ていらっしゃるお子さんが卒園したときに、放課後児童クラブに子供を預ける、仕事終わってからまた迎えにくるから、そこに預けるといことが前提としてこの学校に通うことができるということ。それがこの3番目です。

**【山野金沢市長】**

3番目の、「預かり先等」と書いてあります。例えば、今教育長が申し上げた放課後児童クラブ、もしくは自分の祖父祖母の家があって、その祖父祖母が預かり先としてあるということになってくるということですね。

**【野口教育長】**

はい。

**【三谷地区町会連合会】**

地区内の方だけスクールバスで運行して、地区外は保護者が送迎するとなると、地元からいろいろな呼びかけをしてもなかなか集まりにくいというのがその実態ではないかなと。

だから、その辺融通がきくように、何かご検討お願いしたい。

**【山野金沢市長】**

無理です。それをやり出すと、もう校下とか小学校とか全くなくなってしまいます。基本的には校下があって、いろいろな活動があって、そこでいろいろな事情があって、お父さん、お母さんがここで働いている、その間、ここの児童クラブ、おじいちゃん、おばあちゃんの家がある。そこで預かり先があるという形ではないと無理だと。路線バスはぜひ

ご利用いただければと思いますけれども、全然違うところからその人のためのスクールバスとなると、これは極端なこと言えば、金沢市中、もっと言えば津幡からも内灘からもという話が増えていきかねませんので、ここはきちんとしないといけないところだと思います。

#### (4) 共通課題についての討議

高齢者等の外出機会創出による地域コミュニティの活性化

##### ①「乗り合いタクシー」の本格実施に向けた課題整理

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

##### ②薬師谷、三谷地区における高齢者の公共交通利用促進

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

#### 【三谷地区町会連合会】

2つほど、今の交通機関の話でお話をしたいことがあります。

1点目は、公共交通機関の使い方の格差であります。北陸鉄道は夜遅くまで走っている。金沢から地方へ出る車は11時まで走っています。ところが、こちらのほうへ来るバスは7時にはなくなる。疎外されているわけです。交通機関を利用する立場でありながら、同じ市民でありながら。

そして、金沢市は北陸鉄道には補助は出しているけど、JR西日本には補助は出していないわけですよね。出しているかどうかわかりませんが、出していないと私は聞いています。そうすることによって、交通事業者は格差をつけるのは当然だと思います。それが1点。

もう1つは、加越能バスは、金沢大学の前から南砺市に向かって今6便の車が走っています。一日6便です。304号線で金福線というバス2本あった線が廃止になりました。

ということは、同じ金沢市民が、金沢市と南砺市を結んでいる公共交通機関が、片一方では6車線ふえて、片一方では2車線減ったということです。それは金沢市民の立場、交通利用者の立場から言うと、金沢市は補助金を南砺市と協力して両方に出すという方策が

なぜとれなかったのか。

南砺市は6便を通すための補助金を出しています。そのために加越能バスは6便のほうにはお金をもらっており通しますけれども、金福線には補助金がないので通しません。これははっきりしています。それは、片一方は民間企業ですから、当然そうです。

だから、金沢市にしてみれば、地域の住民が非常に大変厳しい思いをしているのに、それをそのまま認めている、いわゆる陸運局の許可を金沢市に当然認可を与えるために、意見を聞いていると思う。それをそのまま認めてやっているということですから、もう少し南砺市と連携をとって、地域の住民の足というものの確保について、もう少し前向に考えていただきたいのが一つ。

それから、この地域のお年寄りたちは、週に1回か2回は子供たちが迎えにきてくれたり、買い物に来てくれたりして、何とかやれるが、病気の通院などになってくると、行ったら行ったままで帰ってこられない。だから、治療終わったら後はタクシーで帰る。買い物してタクシーで帰るというような状態になっている。

今、75歳からだど、定期券の話とか補助金の話がありましたけど、一番ここで多いのはおばあちゃんたちです。車の免許も何も関係ない。自分の体のために病院に行かなくてはならない。それから、買い物に行かないといけないというこの人たちの足が確保できてない。

少なくとも、ここに必要な足の数だけは公共交通機関として確保した上で、コミュニティバスを回らせるという形にしないと、非常に虐げられている、取り残されて放置されているという、そういう気持ちが非常にこの地域の人には多いということも理解をしていただきたい。

#### 【松田都市政策局長】

まず、バス路線の補助の話です。金沢市では山間部と郊外バス路線維持費補助ということで赤字路線を維持するために補助を出しています。その多くはJRバス。特に森本地区のバスの維持についてです。その点はどうかご理解をいただきたいと思います。

今、少しその補助金が減っています。なぜかという、JRバス、今、香林坊とか広坂走っている。そのことによって、観光客の方がたくさん乗っておられる。広坂で21世紀美術館、それから兼六園下、橋場町で東山ということたくさん乗っておいで、そこで大分収支がよくなっておりまして、その補助金は少し減っております。

そういったことで、北鉄に出しているよりもはるかに多く出していること、そこだけのご理解をいただきたい。

#### 【三谷地区町会連合会】

ほとんどの場合は、大場・八田のほうにバスが走っているだけで、こっちのほうには入っていない。

問題はうちのほうにどうやって回すかということです。

#### 【松田都市政策局長】

私も昔、似た場所に住んでおりました、JRバスしかなかったということはよく承知しておりますし、それだけを頼りに生活しておられた高齢者の方がたくさんおいでたこともよく承知しております。

本数が少ないことも知っております。ですから、私、必ず通勤はJRバスで通っております。そういったバスに必ず乗るようにしておりますので、どうかその辺はご理解をいただきたいと思います。

いろいろなご事情ありますし、交通事業者の収支の関係もあります。1つだけ申し上げたいのは、できるだけ乗っていただければということをお願いしたいのと、あとその他いろいろご心配されているようなこと、大変よく事情わかります。

先ほどの乗り合いタクシーのお話もありますので、またそれは一緒にご相談させていただいて、少しでもよくなるようにしていきたいと思いますので、どうかお願いいたします。

#### 【薬師谷地区町会連合会】

町連の会長さんもお話ししましたがけれども、昨年、免許証返納に絡んで実は乗り合いタクシーを動かしてみました。そのときに、2コースだったが、動かしてみた中で乗り合った方々が、これは便利だと。これなら週2回ぐらいなら乗ってもいいなという話あった。

今少し私が不審に思っているのは、補助金の関係です。なぜ定期券にしたのか、よくわからない。

だから、毎日定期券を使っている。外出機会創出ということなのだけど、どんな人が毎日乗るのでしょうか、わからない。

そして、何人かに聞いても、定期券は使わないと。持ち出しが多いからと。何で回数券

にしないのかという方がかなりいらっしゃる。

先ほどから乗り合いタクシーの話が出ましたので、非常にうれしく思っているのですが、ただ補助金につきましては、逆効果だと思います。定期券で補助金出すというのは、逆に出る機会をとめていると思っています。そういう声がどんどん来ている。何人かと話しすると、あれは使いものにならないと。なぜに回数券にしないのかとあるので、今、開設する気はないとおっしゃいましたけれども、非常に皆さんには不評だと、そういうことをお伝えしておきます。

#### 【松田都市政策局長】

ご意見承りました。確かにそういうお声も私もお聞きしたことがあります。もともとは北陸鉄道のシルバー定期券、これをもとに制度をつくっておりますので、あれはどちらかというと北陸鉄道の通っているところについては、いろいろなところに行けるということで活用されているのだと思います。

ただ、利用件数自体は年々おかげさまで増えておりまして、そういったこともありましたので、今のご意見等も踏まえて、またいろいろと研究はさせていただきたいと思います。

#### 【薬師谷地区町会連合会】

市内ならいいですよ。遠いところは定期が結構高いですからね。

#### 【三谷地区町会連合会】

最初に市街化調整区域を外す。そうすれば、人が来るのではないか、これは短絡的過ぎまして、不動産屋さんに言われました。市街化調整区域を外しても、金沢の北部に人は行きません。入ってくる外部の人たちは、何を見て、どこに住もうと思っているか知っていますか。子供の教育です。子供の教育で、どこに将来、高校、大学へどうやって進学させようかというときに、北部に住みません。住む場所は寺町台を目指します。そこが一番。だから不動産の価格も高いし、需要があるということです。北部のほうの需要はないので、不動産の価格は非常に低いですと、そう言われました。

もう一つですが、いろんな話の中で、交流を促進することは今はやりのことだが、それが、地域にとって、結果、成果はどうなのか。いろいろ朝市、いろんなお祭りをやります。その二、三日は人がたくさん来ます。縁のある人たちはよく来てくれます。ふるさとに縁

のある人たちは来るのですが、それでも人口の減少、住民はどんどん減っています。減る理由が、働き場所がない。自分たちの子供たちの世代が金沢や大都会のほうに行ってしまう。

先ほど言われましたけれども、この2つの地区で4,000人ほどいて、実は5年間で10%ほど減っていますが、まだそんなに減ってない地区、町会というのは薬師、不動寺、堅田、河原市、ここが1,500人います。4,000人のうちの4町会でそれだけいる。ということは、実はその他のところは限界集落に近づいています。そういう状態です。

その中で、皆さんにぜひ市へのお願いとして今ちょっと考えているのは何か。先ほどからコミュニティの活性化は今喫緊の課題で、交通手段やいろいろあります。ところが、あと5年で団塊世代のピークが75歳以上になったら人口減少。すぐ言われるのは、例えば市民農園、よく今人が借りに来ています。誰が借りに来ているかという、定年退職した人たちが借りに来ています。でも、その人たちもそのピークがあと5年したらもっと大変な歳になるので、いなくなります。

そういうこともあって、その基本は、もう限界になったら、子供たちが出てしまっていなかったら、ここに移住してもらう方法何かないのかなど。昨年から才田にある農業試験場のところで耕稼塾というのがあります。これは農業をやりたい人たちが集まってきているところ。そこの先生方といろいろ話ししていたら、耕稼塾に来て農業をやりたいと思っている人のうちの半分しか実際に農業できません。土地借りられないから。農業大学校も金沢市でもやっています。そうやって農業をやる人を育成していますが、現実にできる人はその半分だと。

今、一番のここの課題は、そういうやる意欲のある人たちにこの山手やいろんなところに来て耕作放棄地を耕作してもらうこと。現実にもう既に耕稼塾の卒業生がこちらの山手に何人も入ってきています。こういう人たちをもっと増やさないとコミュニティの基礎、人の人数は増えないのではないかと思います。

そこで、これは市へのお願いになるのですが、そういうことへのアドバイスと、それからスムーズに行く方法を「〇〇農園という農園つくってやりますよ」って新聞記者に言うと、すぐにもう飛びついてきてくれました。そこに市の協力もぜひひとつお願いして、ここへ農業をやる人を入れていくこと。魅力づくり。

先ほど田上地区、何で人が増えるかと。私も教育にかかわった者なので、あそこの兼六中学校、進学校のどこの学校とは言いませんが、そこに行く人の数がどんどん増えていま

す。あの近辺、あの大通りの近辺に、もう既に大変な塾の数があります。夜の看板見るとすぐわかります。

そういうことを考えると、ここの魅力、何を発信しなければいけないかという、そうやって農業でやる人を入れることと、もう一つは、先ほどからの話でこちらに人が来てもらう、その魅力づくりをどういうふうにしてつくっていくか。その魅力というのは、例えば歴史的な魅力もあるのです。「法華谷」と言われた魅力もあります。

もう一つは、私も最近気がついたのですが、ここよりもっと能登地区は大変です。能登地区の人の話聞くと、もう能登地区の人は仕事がないから中学校や小学校を出たその卒業と同時に仕事を求めて河北郡に移住すると。かなり来ていますよと。だから、内灘とか津幡で中学校が増えてきているのです。でも、気持ちは能登にある。

家に何かがあったら、すぐに山側環状やのと里山海道ですぐ帰れる。何かあればすぐ帰るという気持ちでみんな話していました。その話を聞くと、そういう人たちが、この金沢近辺あるいは金沢市内に入ってきているので、そういう入ってきている人たち、自然増加ではなくて、社会的な理由で入ってくる人たちを金沢市はどうやって受け入れるのか。

変な言い方ですが、金沢市の新市民になるのですが、そういう人たちもこの地区に、特に河北郡のほうに来ている。ここも実はもと河北郡ですので、そういう人たちをもっと受け入れる文化的な要素というか、教育的な要素もつくっていけばいいのではないかと。それが例えば、みんな言うのは、もう能登の人たち、お祭りやいろんな文化の行事も人がいないのでやめていかないといけない。でも、自分たちの子供、孫は実は金沢のほうに行っている。では、そういうことを継承する。今、もう大変な時代で、5年後どうなるかわかりませんが、そういう人たちも受け入れた幅の広さというか、懐の広さで金沢市はそういうことを受け入れられる場所になってほしいと思っています。

先ほどのみんな出ていくのは仕事がないから。じゃ、ここで仕事をして生活できる状態にするにはどうするかという、農業で生活すると。今ここにきている人たちの話聞くと、所得が少なくても大丈夫です。例えば5割が農業しているけど、いしかわ農業総合支援機構の人の話によると、補助金もらった5年後は、そのまたその半分やめるといいます。やめる理由は所得が少ないから。では所得を増やすにはどうするか。

今、白山市やら小松の人たちはJAから離れて、直接関西のスーパーにどんどん売り出しています。ということは、消費者に近づく。ここでもし農業をやる人から言うと、消費者の一番近くには工業団地に2,000人もいるのではないかと。できたら、そういうところ

に売る施設があればいいのではないかと。もう一つは、そういう場所をつくるにしても、実は能登の人たちもこちら来ますと。それから、金沢で土産というのは、来た途端に買わないのです。出口で帰るときに買うのです。そういう場所として、ここを出るときにとまってもらえる場所が一つあればいいのではないかと考えています。

そういうことで、一つは、まずお願いとしては、そうやって農業をやる人もこの地区にどんどん入れていく。もう既に入っている人もいますので、そういうルートをもっともっと広げていくことにぜひ協力をお願いしたいという、まずこれがお願いです。

#### 【山野金沢市長】

農業をやる若い方が今すごく増えています。ただ、今お話あったように、場所がない。ご理解をいただいて場所をお借りしたとしても、補助金が切れた段階でなかなか厳しいという声もよくお聞きするところでもあります。

販売のルートというものもきちんと開拓をしていかなければいけない。その方たちに全てやれと言ってもなかなか厳しい。そこで行政が間に入るということもしっかりとしていかななくてはいけないという、そんなご提案だったと思います。取り組んでいるところではありますけれども、いま一度、どんなことができるのかということの今宿題もいただきましたので考えていきたいと思っています。

#### (5) その他質疑応答

##### 【薬師谷地区町会連合会】

売りは農業だけではなくて、工業もあるし、商業もあるから、もっとみんなの知恵を絞るほうが先ではないのかという気がします。

そして、金沢市は道の駅がない。欲しいなどは今思いました。

##### 【山野金沢市長】

道の駅は、全国的になくなっていきます。誰が責任持つかだとか、どこもほぼ全て赤字の垂れ流しということもあって、トレンドとしては少なくなっていますし、今この時代に道の駅をゼロからつくるということはなかなか課題が大きいと思っています。

ここしばらく研究していませんけれども、今改めてご提案もいただきましたので、ここ最近の全国の状況等を調べながら、可能性を少し探らせていただければと思います。



**【三谷地区町会連合会】**

自分の子供は三谷小学校に通わせているが、今の状況、38名でとても少なくなって、増える要素も今の話、今住んでいる人の中で戻ってくる若い世代がいればもう少しもつのかもしれません。もつという言い方にしかない雰囲気があるので、地域の皆さんが今いろいろ考え絞ってくださっているのですけれども、あんまり少ないと少し自分も子供の環境としてすごく不安もありますし、できれば増えてほしいのですけれども。

増える要素がちょっと自分も考えても、今の市街化区域でそれを外せば住宅地とかができれば人が来るのかとも思ったのですが、先ほどの意見で人の集まる場所というのはやはり教育が充実したり、お店があったりとかというので、ここの難しさというのがどうしたらいいのかと今考えさせられました。

**【薬師谷地区町会連合会】**

市の管轄かどうかかわからないのですが、森本まで自転車で行って、あとは森本から金沢までI Rを利用しているのですが、森本駅の自転車置き場は市の管轄なのですか。

**【松田都市政策局長】**

そうです。

**【薬師谷地区町会連合 I】**

朝早くから開いていただいて、10時に終わるのですが、あの時間をI Rのダイヤに合わせて、せめて10時半ぐらいに、夜の、30分延長していただくと助かるなと思っています。

I Rのバスが金沢から出るのが、9時台が2本です。10分と24分。その24分の電車に乗らないと自転車置き場もしまってしまう。次のダイヤ、金沢駅の時間が10時2分です。森本に着くのが10時9分か10分です。10分も遅いから、結局、自転車乗れずに歩いて帰らないかんということなので、その辺、I Rのダイヤ、下りがあれば上りがあると思うのですが、時間を延長していただくと助かるなと思います。

もう1点は、こちら、北鉄バスがなくて、J Rあるいは福光へ行くその線しかないので

すが、そのバスについても最終が早い。7時何分とかです。その辺、JRのほうにかけ合っていて、もう少し夜のダイヤを8時台、9時台、1本か2本でも、先ほど来、赤字路線で補助も出しているということで、大変な市のほうの負担も多いかもわかりませんが、その辺の時間帯も増やしていただいたら、またバス利用の人も幾らか増えるのではないかなと。余りにも早いから、バス利用できないという部分があるのではないかなと思いますので、その辺のダイヤをもう少し8時台、9時台に入れていただけるような交渉をしていただければと思います。お願いいたします。

**【松田都市政策局長】**

駐輪場のことにつきましては、確認してまたご連絡をさせていただきたいと思います。ほかの駅の駐輪場の絡みも、関連もありますので、おっしゃることよくわかりましたので、少し調べた上で確認をさせていただきたいと思います。

それから、JRバスですけれども、最後のバスは広坂から8時ですね。8時で、才田行きですので、こちらに来ないのですけれど。乗るともっとよくわかるのですが、誰も乗っておいでない。そこにつきましては確におっしゃることもよくわかりますので、JRのほうとも話はしますけれども、まず、先ほどお願いしたように、皆さんぜひ乗っていただきたいということでお願いをいたします。私も乗りますので。

**【山野金沢市長】**

駐輪場は市が管理しているのですか。

**【松田都市政策局長】**

駐輪場は市の管理です。

**【薬師谷地区町会連合会】**

雨の日は自転車に乗らないので、雨の日はどうしてもバスで森本まで歩こうと思うと、年齢が年齢ですので、若いときだったら歩いていたのですが、やはり自転車利用になってしまう。

香林坊発田の島行きが最終7時19分です。それ以降は、局長がおっしゃった才田行きですので、森本どまりです。田の島行きだと、医王病院前あるいは塚崎で岩出だったらおり

られるが、ダイヤを遅いのを増やしてほしい。

夜の7時17分のたまに乗りますけど、私一人ということはないので、何人か乗っています。

## (6) 市長まとめ

### 【山野金沢市長】

本日、皆さん、土曜日おでかけのしづらい時間にもたくさんの方がお越しをいただきまして、心から感謝を申し上げます。

幾つも具体的なお話をいただきました。何度も同じことを申し上げていますが、あさって議会が終わりますので、議会が終わりましたらこの交通機関のことについてぜひ具体的な話をまた相談に乗っていただければと思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。

コミュニティ活性化事業、今日午前中あった、まちづくりチャレンジ事業の公開プレゼンに少し似ているのです。まちづくりチャレンジ事業というのは、いろいろなところからまちづくりのアイデアを出してもらい、こんなことやろう、あんなことやろうと。それを行政のこれを教育委員会とこんなことやるだとか、環境局とこんなことやろうというアイデアを出してもらって、それで採択したものは我々行政と一緒に汗を流して、お金もそうですけれどもやっぺいこうと。チャレンジ事業があります。これは今言ったように、一緒に汗を流しながら、お金も出しながらやっぺいこうと。それから、ある種自立していつて、独自でやっぺいこうと活動、地域、NPOがあります。このコミュニティ活性化事業というのは、もちろん、我々も大変失礼ではありますが、書類審査等々させていただきますけれども、基本的には地域の皆さんのいろいろな事業、町会の加入者を増やすための事業、コミュニティを活性化するための事業、こういうことをするという事業、その事業に対して行政が財政的なバックアップをさせていただいて、また時には、場合によっては中間報告を求めることがあるかもしれませんが、最終的にはその最終の報告書をきちんとしていただきながら、我々とすればそれをこの地域でこの事業が大変効果が上がったので、別の地域にまで広げていこうと。広げていければいいなという思いでさせていただきたいと思っている事業ですので、ぜひ、今、まだ市はそんなにないかもしれませんが、今、もしかしたら、いや、今初めて知ったという方もいらっしゃるかもしれませんが、頭の中で地域の皆さんと相談していただき、29日までに案を出していただければ大変う

れしいなと思っています。

行政が何もかもやる時代ではないと思っていますし、マンパワー的にも財政的にもこれ不可能であります。一義的にはそれぞれの地域の皆さんがアイデアを出していただいて、地域の皆さんが汗を流していただいて、それを我々行政と一緒にやっていくことによってまちを元気にしていって、子供を守っていくということになっていくのだと思いますので、ぜひ皆さん方のお力をおかしかねばと思います。

本日はたくさんの方にお越しいただきまして、本当にありがとうございました。